

# キャリアチェンジ犬の申込を検討されている方へ



犬は長生きすると15歳以上生きるものもいます。キャリアチェンジ犬で譲渡になる犬の多くは1歳半～2歳程の若い犬ですので、譲渡後約10年～13年以上共に暮らすことになります。その間病気をしたり、高齢になると介護が必要になることがあります。ラブラドルの体重の目安は20～35kgになりますので、10年後大型犬のお世話ができる体力があるかどうかをよくご検討下さい。

(条件が厳しいと判断された場合にはリタイア犬をおすすめさせて頂く場合もございます。)



犬を飼育するうえで、日々の健康管理はきちんと行わなければいけません。犬の場合、狂犬病注射、混合ワクチン、フィラリアの予防薬、ノミダニ予防など必ず必要になってきます。また病院に通わないといけないような病気をしてしまうかもしれません。病院での注射や薬代は体重によって高くなりますので大型犬の治療費は小型犬よりも高額になってしまいます。日々の健康管理に必要な費用はもちろん、病院での突発的な治療代などが必要になることがありますので大型犬を飼育するには費用がかかることをご理解下さい。

協会の犬たちは小さい頃から人のそばで暮してきた犬ばかりです。短時間のお留守番はできますが、長時間留守にされるお宅だと犬にとってはストレスを感じてしまう環境になってしまいます。4時間を超える留守時間がある場合は譲渡をお断りする場合がございます。

犬が寿命を全うする最後の時までお世話をして下さいの方にお渡ししたいと考えております。ご高齢の方への譲渡の場合今は問題がなくても、今後健康上の問題等で犬の世話が出来なくなってしまうようなことも考えられます。そのようなリスク軽減の為に60歳以上の方の申込者の場合後見人をつけてもらうことを義務付けさせて頂いております。後見人は①申込者と夫婦の関係でないこと②55歳以下であること③キャリアチェンジ犬譲渡申込規定を順守してもらえること(捺印が必要です)、④申込者と同じく譲渡条件を満たしている方となります。60歳以上の方で申込を検討されている方は後見人制度の協力をお願いします。



キャリアチェンジとなった犬は盲導犬の訓練を継続して行うことはありません。訓練が完了した状態でのお渡しではないことをご理解ください。

